

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200452
法人名	社会福祉法人 全和会
事業所名	グループホーム わかば
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市太郎丸499番地1 (電話) 0948 - 24 - 7222

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月25日	評価確定日	平成22年1月15日

【情報提供票より】(平成21年11月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間5年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 960円			

(4) 利用者の概要 (11月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	69 歳	最高	105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松口循環器科・内科医院・アイ歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「わかば」は、国道から少し離れた、住宅地と田園風景が融合する静かな環境に位置している。ホームは広い敷地を有し、建物は創立者の思いが反映された平屋建ての廻廊式となっている。中庭は日光浴や散策ができ、夏季には光をさえぎる役割りを兼ねる、ゴーヤやヘチマが植えられている。十分な広さを持つ室内空間では、玄関のホールと食堂の空間が使い分けられ、日に何度か移動することで、運動面の充実も図っている。地域の中の大家族という考えで野菜を作ったり、干し柿や漬物など、入居者の方々がこれまでに培ってきたものを、日常の中に取り入れている。'いつも明るくほがらかに、自分らしさを忘れずに、ゆったり過ごす、わがホーム'を基本姿勢とした日々の支援を行うとともに、行政との連携を深めながら、地域に貢献できる地域密着型サービス事業所としてのあるべき姿を描き、方策などを積極的に試行しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえ、管理者・職員が一丸となり改善に取り組んでいる。業務上必要な項目については、計画的に内部研修を実施し、職員の質の向上を図っている。地域との交流についても、行事への参加依頼を契機に交流の輪が広まり、地域に根付いた施設としての位置を確立している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価のベースを作成し、会議などで職員と話し合いながら作成している。今回、自己評価作成のプロセスで業務を見直すことができ、職員全員と望んでいるグループホームのあり方を共有する機会につながっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に地域の見識者や行政・家族の参加のもと、ホームでの行事や外部評価の報告を行っている。開催回数を重ねるごとに、地域に支えられる施設から、地域に貢献できる社会資源としての地域密着型事業所として、水害等災害時における独居高齢者の避難場所としての機能や、一時的に独居となる高齢者の短期利用としての機能を、行政との連携により確立している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情相談窓口を設置し、担当者が相談等に対応している。面会時には家族とのコミュニケーションや信頼関係を築くことが重要であると考え、近況報告等を行なっている。運営推進会議に家族の参加があり、出された意見を運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣組に加入し、回覧板によって暮らしに関する内容や地域の行事の情報を共有している。地区のお宮掃除も職員が参加し、住民と顔なじみになっている。ホームの餅つきに地域の方の協力を依頼したことが契機となり、地域の方々とのコミュニケーションが図れるようになった。地区の10数名の福祉委員のホーム見学を受け入れ、地区における啓蒙活動につながっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域に密着した一軒の大家族としてのホームを目指し、理念は「いつも、明るくほがらかに自分らしさを忘れずにゆったり過ごすわがホーム」を掲げ、地域の中に溶け込んだ実践に取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は、玄関の目に付きやすい場所に、額に入れ掲げられている。会議や勉強会がある毎に、業務の原点はこの理念に基づいていることを管理者は職員に繰り返し伝えていく。新規の採用者には、最初に理念に託された思いや方針を伝え、理解・共有できるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	隣組に加入し、回覧板によって暮らしに関係する内容や地域の行事の情報を共有している。地区のお宮掃除も職員が参加し、住民と顔なじみになっている。ホームの餅つきに地域の方の協力を依頼したことが契機となり、地域の方々のコミュニケーションが図れるようになった。地区の10数名の福祉委員のホーム見学を受け入れ、地区における啓蒙活動につながっている。		野菜作りを教えてもらったり、差し入れをいただくこともある。餅つき大会では、「ご指導お願いします」と案内を出し、地域との積極的な交流の機会を育てている。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者が自己評価のベースを作成し、会議などで職員と話し合いながら作成している。このような経過を踏むことで外部評価の意義が再認識できている。また、昨年度の指摘事項であった研修の資料・参加氏名等、記録の充実を図っている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に地域の見識者や行政・家族の参加のもと、ホームでの行事や外部評価の報告を行っている。年数を重ねる内に、会議はホームが地域の社会資源として地域密着型サービスの役割を考える機会として活かし、地域のために緊急時の避難場所としての提供や、一時的なショートステイ・弁当の差し入れなども検討している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政によって地域密着型サービスの運用には独自性や地域性がある。入居者及び家族にとって最良の方策等、常に市の担当者と相談しアドバイスや、担当以外の部署への紹介・仲介など、行政の垣根をはらった関係を構築している。また、飯塚市から派遣される介護相談員も月2回受け入れている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度(任意後見)を活用されている方がおり、その支援の過程を通じて学ぶ機会を持ち、研修を行い、職員の理解を高めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の面会時に、日々の暮らしの様子や健康面、金銭管理等を報告し、インフルエンザ予防接種の承諾確認などは電話にて連絡を取っている。その他年2回の定期刊行紙「陽だまり」を送付し、夏祭りや餅つきなどの行事案内を出している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。面会時には家族とのコミュニケーションや信頼関係を築くことが重要であると考えている。また、運営推進会議に家族の参加があり、出された意見を運営に反映させている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内で組織の規模拡大や適材適所の観点より、やむを得ず人事異動が行われることがある。しかし、法人という組織を活かし、時期や職員の重複配置などを考慮し、入居者への影響を最小限にするよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	年齢・性別にかかわらず、福祉に対する基本姿勢のある方を優先している。法人内に3箇所のグループホームがあり、それぞれのホームの特徴を活かし、適材適所の配置を行い、その人の能力が発揮できるように配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	内部研修に倫理・法令遵守を計画し、周知徹底を図っている。また、会議や現場で言葉使いについて考える機会を持っている。日々の言葉かけは、第三者や家族が聞いてどのような印象をもたれるかに留意し、方言や馴れ合いの言葉にならないように注意している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	経験年数・能力・意欲に応じて外部研修を進めている。内部研修は法令に基づき、職員が知識として習得すべき項目を中心に行っている。特に現場教育は徹底しており、OJTにより職員の意識を高めている。その意味するものは常にホームの理念に立ち返る、指導・助言となっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内のグループホームや他施設間との交流を中心に、合同企画・情報交換を行っている。今後は、これまでの実績を活かし、地域におけるネットワークの構築に、リーダーシップを発揮される事を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前は環境になじんでいただくことが重要であると考え、施設見学・体験入居や半日だけでも過ごしていただくようにしている。入居時まで可能な情報を収集し、暫定的な計画を立て職員に周知し、統一したケアやサービス提供により、入居者が徐々になじめるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者の方々より、人生の先輩として一生懸命に生きてこられた人生に培われた暮らしの知恵・礼儀を学んでいる。日頃の会話やゲーム等、同じ目線で感情を共有するよう心がけている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	情報収集時に生活歴や生活パターンなどを伺ったり、昔話をしながら思いや希望を把握している。居室で過ごすことが多い方や個食を好まれる方など、無理強いすることなく、その方の暮らし方のリズムを尊重している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の意向と、カンファレンスでの職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。介護度の状態により、ホームでできる機能訓練や体力の維持を計画に反映している。計画と毎日の日課が連動するようにフォーマットを工夫し、日々の業務に反映している。今後、短期目標に具体的な表現を用いると、モニタリングで評価しやすいのではないかと考えられる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	短期目標にあわせて、3ヶ月に1回、計画の見直しを行っている。病気など状態変化がある場合は、その日の全職員でカンファレンスを開き計画の変更を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	カラオケが好きな入居者には、法人内のデイサービスでのカラオケ大会の参加を支援している。法人内に3箇所のグループホームがあるので、入居者に最もなじみやすいホームを選択することができる。法人合同の旅行や、冠婚葬祭への支援にも柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の希望による、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。また、ホームの協力医とも連携を持ち、往診体制を整え24時間の連絡体制を整備している。容態変化時には総合病院との連絡調整を行ってもらう等、緊急時の体制も整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	これまでに2人の方の看取りを経験しており、かかりつけ医の協力により、職員が共通認識を持って方針を共有している。「終の住み処」として、本人・家族の意向にそえるよう、また最良の方法となるよう、日々取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシーを守ることはどのようなことなのかを、あらためて考え、概念から資料に基づき内部研修を行っている。特に言葉使いや呼び名などは常時注意している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	これまでの入居者の暮らしのリズムを中心に、施設や職員の利益や業務を優先するのではなく、入居者のペースに合わせた暮らしとなるように、研修や会議がある毎に指導し、徹底するように努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	日頃の会話の中で個々の嗜好を聴き取り、食事への楽しみや関心を膨らませるようにしている。食材は畑で取れた物や旬の物を使い、季節感を大事にしている。個人によっては、座ってできるモヤシのヒゲ取りなどの料理の下ごしらえ、配食や後片づけを手伝っていただいている。ホームの中での収穫物である野菜(白菜の漬物やゆかみそ漬け)や干し柿等が食卓を飾り、それが話題となり食事を賑やかにしていた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	「入浴・食事をゆっくり」という法人としての姿勢があり、大・小の浴槽が設置され、一人ひとりにあわせた支援が行なわれている。基本として、月・水・金・土曜日の入浴日に設定はあるが、個々の希望や状況により、柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	自室の掃除をされる方・個人として新聞を購読している方・嗜好品を居室の冷蔵庫に入れ楽しむ方・毎日のレクリエーションの椅子を揃えるのを役割とされている方・亀の世話を日課とされる方・琴の練習をされる方等、これまでの暮らしの継続ができるように、過ごし方を日課表に入れ、職員で共有し個別に支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	希望者は毎日の日課として施設周辺の散歩を行い、天候のよい時は車椅子の方も屋外に出かけている。また、買物同行等、月1回の外出支援を行っている。ホームの造りが回廊式で日中は常時日差しが入り、中庭に出ることで介護度が高い入居者の方々も、日光浴や外気浴を楽しんでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	施錠も身体拘束になることを職員に周知している。夜間以外は施錠していない。徘徊の場合は徹底して同行し、さりげなくホームへ帰られるように促している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防法に基づき、避難訓練を年に2回実施している。隣接するタクシー会社とも協力体制を構築している。敷地内は災害時の一時避難場所となっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	個人記録で水分・食事摂取量が把握できるようになっている。献立も季節に応じた新鮮な食材を使い、バランスよく考えられている。食事は個人にあった形状にしているが、きざみ食などは1品1品をきざみ、食感を大事にしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム わかば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	平屋建てで廻廊式のホームの造りを最大限利用し、換気や採光に工夫している。夏場はゴーヤや瓢箪を植えて直射日光をさえぎっている。食堂と玄関ホールの空間をうまく使い分け、共用空間の2ヶ所の配置により、入居者はその時々居場所が確保でき、空間的に豊かな暮らしを実現している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	全居室が中庭に面しており、換気の為、ドアが開けられることが多く、各居室の入口には家庭的な雰囲気を感じる好みの暖簾が掛けてあった。長年使い慣れた家具や調度品、思い出の写真などが飾られ、入居者各自の個性溢れる居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			